

「研究ノート」

激動の幕末・明治維新を生きた

山崎宿里組組頭・望月傳左衛門こと名筆家・望月東雲について

石田年子

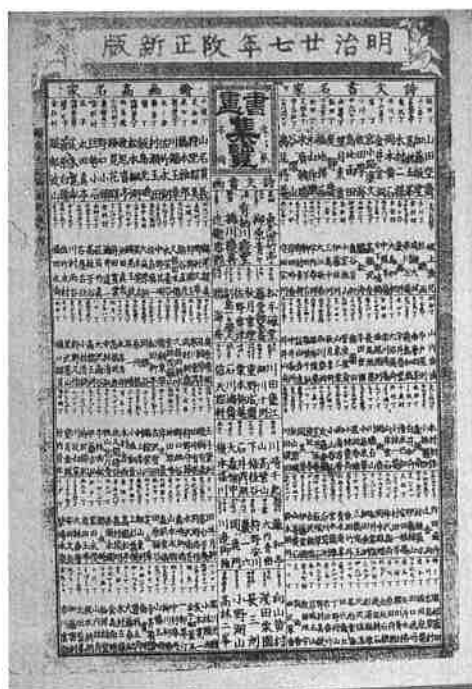
はじめに

筆者が石造物に興味を持ち、独自に野田市内の民俗調査を始めてから二五年ほどが経過し、石造物・絵馬・民俗行事などの手持ちデータが膨大なものとなってしまった。これら玉石混淆のデータ群から、ときに想定外の情報が塊となって現れ、追跡調査を余儀なくされることがある。

今稿で報告する名筆家・望月東雲はその事例の一つで、幕末から明治中期にかけて石造物や絵馬に多くの作品がありながら文献資料上には殆ど記録のない謎の人物であった。しかし、平成一五年に野田市が刊行した「野田市史研究・一四号」に掲載された望月（傳左衛門）家文書目録に出会い、望月東雲は山崎里地区で江戸中期頃より永く組頭を勤めた望月家の九代目当主・傳左衛門であることに気づいた。これにより究明が進むかと思えたが、当文書群の中には書家・東雲敬明としての活躍に関する手がかりがほとんどなく、唯一、翁の晩年である明治二七年（一八九四）に発行された「書画集覧」という刷り物一枚が残るのみであった。書画集覧とは書画販売業界が毎年発行していた書画作家の番付表のようなもので、表の最上段の一六名のひとりに「山崎丁・望月東雲」と翁の名が記されている。

書画集覧に掲載された経緯や価値等については不明であるが、これにより少なくとも東雲翁が凡庸な書家ではなかったことだけは確信できた。

筆者は書道に関する知識は皆無であり、江戸期における書道の歴史や流派、作品の評価等への言及は控え手元にある東雲の七二作品の調査と望月家所蔵の文書、当家の墓所から得られた情報などから名筆家・望月東雲の足跡と時代背景に迫ってみた。



書画集覧
(望月家所蔵)

一、望月東雲（傳左衛門）家について

望月家は野田市山崎里地区に江戸初期より居住する旧家で、墓所には寛文六年（一六六六）に逝去した本性経後信士を先祖とする歴代の墓石が並ぶ。

江戸期の当主は代々傳左衛門を襲名し、永く「傳左衛門組」として里坪の組頭を勤めていたことが所蔵する古文書から知ることが出来る。組頭とは江戸期の村三役（名主・組頭・百姓代）のひとつで名主を補佐し、坪（小字）の政務を担った。当家の組頭としての文書は宝暦一年（一七六一）作成の「田反別小前改帳」より始まり、年毎の「御年貢米小前斗立帳」や「御普請人足小前割合帳」など里坪における多数の地方文書が傳左衛門組として安政分まで残されている。

日光東往還の宿場町であった山崎宿は將軍の日光社參に際し、將軍の警護にあたる大名による軍団がこの街道を利用してゐる。新料名主であった中村太兵衛家文書によれば、天保一四年（一八四三）の一二代將軍・徳川家慶日光社參の折には、六日間にわたり山崎宿に大名十三家・千人近くが休泊し、望月傳左衛門家も一五〇人近い家臣や徒歩衆の休泊を引受けた記録がある。維新前年の慶応三年（一八六七）に、山崎村の村役人一二名で関東郡代・福田所左衛門等に宛てた「乍恐以書付御吟味御下ヶ奉願上候」の書状（清水・渡辺家文書）を提出しており、ここでは傳左衛門は古料年寄の筆頭として名を連ねている。

維新を迎え、明治四年（一八七一）に戸籍法が制定され、明治政府は八ヶ村程度の地域を区として編成し、翌五年には旧来の名主などの村役人クラスが戸長・副戸長に名を変えて任命され、戸籍の管理のほかに行政の実施をも担うことになるが、この激動の時期に傳左衛門は副戸長、戸長頭取、小区戸長を勤めており（表2）、行政担当能力の高さが伺われる。

明治一六年（一八八三）には、息子の直蔵も戸長を勤め、市

町村制に移行した後の明治三五年前後には孫娘婿の望月時之助が村長と成るなど、近世・近代の山崎村において、望月家の行政への貢献は非常に大きなものであったと考えられる。

二、石碑に刻まれた作品

1. 山岳信仰関連の石碑

表1の種類別作品一覧に示した石造物は四一基あるが、その七割が明治十年代に集中して造立された富士・御嶽碑であることは、野田市の明治維新における民間信仰の混乱を示す興味深い事実といえる。野田市は江戸後期に富士講や木曾御嶽講が非常に繁栄した地域であったが、明治維新を迎えて起こった廃仏毀釈運動や明治政府による宗教改革から山岳信仰系の講社が生残りをかけて教派神道へと転換したのが明治十年代である。野田市内の富士・御嶽講も一斉に教派神道にうつり、主尊を「浅間大菩薩」「御嶽山座王大権現」から「浅間大神」「御嶽山神社」に造立し直した地域が多い。望月東雲の揮毫はこの時期と重なり、流山市や埼玉県吉川市の富士塚においても確認することができた。塚の頂上に祀る立派な石碑だけではなく、野田市の特徴として、傳教子級の役職を持つ講員が自宅に富士・御嶽の小塚や石碑を祀り込んでいることで、東雲の作品も個人宅の庭で確認したものも多い。特に西宝珠花に本部を置く富士丸宝講の講員宅にこの傾向が顕著であった。



富士講碑（桜木神社）



御嶽講碑
（小山新田稻荷神社）

2. 日露従軍碑、寿碑など

明治二十年代に入ると富士・御嶽講社の動きも落着き、多様な作品が現れるようになる。上花輪香取神社富士塚下には女人講中による粟島塔が三基ほど造立されているが、明治二四年（一八九一）の作は東雲の手になるものである。

・日露従軍記念碑

東雲の晩年である明治二七年（一八九四）から二八年に掛けて隣国・清国との間で日清戦争が勃発。山崎村からも二人が出兵しており、凱旋記念として山崎香取神社に記念碑が造立されている。「征清従軍記念碑」と東雲翁によつて大書されたものであるが、後方に建つ「日清戦役出兵者」名簿には東雲の孫娘の婿である望月時之助の名も記されている。

・浅草庵一行碑

寿碑とは門人達が師匠の長寿を祝つて、それまでの経歴を彫りこんだ顕彰碑を造立するものである。野田市内にも寺子屋師匠達の寿碑が多く確認されているが、市内の清水公園内に建つ「浅草庵一行碑」は山崎村大和田出身の遠州流押花師匠の浅草庵一行こと戸邊新助の七五歳を祝して造立された寿碑である。近世・近代の押花師匠は、茶の湯や俳句と同様に富裕層の旦那衆を対象として教授することも多く、一行自身も風雅な趣味人であった。この碑に並んで建つ賛同員碑や世話人名が彫られた広範な地域や人名からその交友の凄さがわかる。

同郷の出身であることから撰文を望月東雲が行い、碑額の篆書と隸書による本文を東齋敬信という人物が担当している。思うに、東雲翁は明治二九年正月に逝去しており、前年に撰文を行ったとして、この寿碑が翁の携わった最後の作品と推測される。文字を担当した人物の銘が東□敬□部分が東雲敬明と共通することから一門の弟子の可能性が高い。

三、奉納額の作品

1. 伊勢太々御神楽奉奏記念額

市内の神社に奉納されている東雲の書額は伊勢講による太々神楽奉納額一二枚を中心に二〇作品を確認している。野田市における伊勢参詣は江戸後期から序々に盛上がりを見せ、明治維新後には天皇の先祖神として、国への忠誠を現す上でも村では重要な行事と位置づけられたようで、神社への奉納絵馬・書額だけで二百余枚を数える。その内の一〇七枚が「伊勢太々御神楽奉奏」に関するもので、御師邸での湯立て神事図や神楽舞いの様子を描いた大絵馬が三三枚、文字や飾りに趣向を凝らした奉納額が七四枚あり、その中で幕末から明治初期に望月東雲の作品が一〇枚を占める事に、当時の東雲への人気がどれ程のものであったかを窺うことが出来る。他にも船橋大神宮への太々御神楽額も同様の規模の作品である。

望月東雲の作品デビューとなるのは、山崎・香取神社に弘化三年（一八四六）六月に奉納された伊勢太々御神楽の書額で、願主として山崎村で古料名主を務めた吉岡金太郎と吉岡佐左衛門・望月傳左衛門が名を連ねたものである。当時の東雲は三十歳と若く、望月家の当主は父親の八代目傳左衛門と考えられ、名筆として評判の高かった利平（東雲）が揮毫したもので、残された東雲としての最初の作品である。大々神楽奉奏額の依頼が相次ぐのは富士・御嶽碑の依頼時期と重なり、時代の変動期と東雲の戸長としての活躍が大きく影響していると考えられる。

2. 社額、幟旗、その他

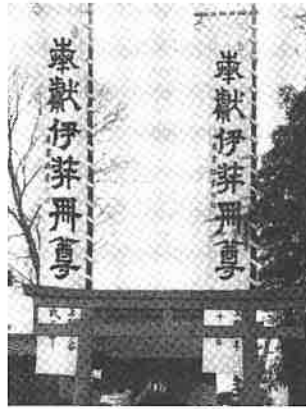
他の作品としては三ツ堀香取神社に掲げられている社額「香取大神・本朝鎮守棟梁寫」は文字の周囲が見事な龍の木彫で彩られている。又、今上下谷・女体神社が保存する東雲の篆書による幟旗「奉献伊弉冉尊」も見ごたえのある作品である。多分、



伊勢講額（目吹上香取神社）



伊勢講額（鶴奉稻荷神社）



幟幡（今上下谷女体神社）
野田市提供写真を反転

当時は多くの神社の幟旗に揮毫をおこなったと考えるが、現在判るのは当神社の幟旗のみである。

四、おわりに

望月東雲翁の世間的な業績を現した資料が管見では見つけれない事から隔靴搔痒の感を持ちながらの執筆となった。当初は望月東雲という名筆家の軌跡を追うつもりが、気づけば幕末から明治維新の変動期を地方自治に邁進した望月傳左衛門の背中を追う結果となった。年表に見るように幕末には一組頭とし

て勤め、明治維新後には目まぐるしく変わる地方制度への対応に、副戸長・戸長・小区戸長として対応している。特に小区とは山崎村だけでなく数ヶ村を規模とする広範な区域であり、小区戸長を勤めたことは大変大きなことで、後に殺到する揮毫の依頼は傳左衛門が為した仕事に対する畏敬の現れでもあったと推察される。

ちなみに、今年（東雲の生誕二〇〇年、一二〇遠忌のようだ）

野田市市史編纂室・野田市郷土博物館の御協力に感謝申し上げます。

【参考資料】

山川晴美「下総国葛飾郡山崎村・望月（傳左衛門）家文書について」『野田市史研究・一四号』野田市史編纂委員会 二〇〇三年

野田市史編さん委員会『野田市民俗報告書(1)今上・山崎の民俗』一九九五年

野田市郷土博物館「野田市内絵馬・奉納額調査目録」『図録・野田の絵馬』二〇一三年

木原徹也「野田を通って行った大名行列―なぜ日光街道?」『かつしか台地・五四号』野田地方史懇話会 二〇一七年

拙稿「野田市の山岳信仰②・富士塚が語る富士講の隆盛」『研究報告一〇号』千葉県立関宿城博物館 二〇〇八年

拙稿「野田市の山岳信仰③・霊神碑が語る木曾御嶽講の歴史」『研究報告一二号』千葉県立関宿城博物館 二〇〇九年

拙稿「野田市の伊勢信仰」『研究報告一四号』千葉県立関宿城博物館 二〇一〇年

拙稿「巡礼塔に見る近世の旅―野田市・百番塔を中心に」『研究報告一七号』千葉県立関宿城博物館 二〇一三年

（いしだ・としこ 当館調査協力員）

表1. 望月東雲作品一覽／種類別
1. 石造物

総No.	No.	所在地	種類	形式	銘文	東雲銘	制作年	西暦
1	1	東宝珠花 日枝神社	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲書	明治八年五月吉日	1875
2	2	平井 個人O家	富士講碑	自然石碑	浅間大神	望月東雲書	明治十年十一月	1877
3	3	山崎 個人S家	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲謹書	明治十一年十月吉辰	1878
4	4	山崎 個人S家	富士講碑	自然石碑	角行靈神	東雲謹書	明治十一年十月吉辰	1878
5	5	山崎 福壽院	聖徳太子塔	自然石碑	聖徳太子	東雲敬明書	明治十一年四月二十二日	1878
6	6	桜台 桜木神社傍道	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲謹書	明治十二年卯三月吉日	1879
7	7	山崎里 個人E家	富士講碑	自然石碑	浅間大神	銘なし	明治十二年六月一日	1879
8	8	流山市東深井320	御嶽講碑	自然石碑	御嶽山神社	東雲拜書	明治十三年四月建之	1880
9	9	流山市東深井 駒形神社	大己貴碑	自然石碑	大己貴命	東雲書	明治十三年五月吉辰	1880
10	10	大殿井長割 個人K家	富士講碑	自然石碑	富士森稲荷大神 □□大神	望月東雲書	明治十三年十二月	1880
11	11	大殿井長割 個人K家	富士講碑	自然石碑	御嶽山大神 宝山印	望月東雲書	明治十三年九月	1880
12	12	大殿井長割 個人K家	御嶽講碑	自然石碑	八海山大神 三笠山大神	東雲書	明治十三年九月	1880
13	13	大殿井長割 個人K家	御嶽講碑	自然石碑	八海山大神 三笠山大神	望月東雲書	明治十三年九月	1880
14	14	大殿井長割 個人K家	御嶽講碑	自然石碑	香取大神 愛宕大神 宇賀神	東雲書	明治十三年九月	1880
15	15	山崎 香取神社	富士講碑	自然石碑	浅間大神 丸岩印	東雲敬明書	明治十四年十二月良辰	1881
16	16	船形上 自治会館墓地	百番塔・墓石	自然石碑	百八十八ヶ所納経塔	東雲書	明治十四年仲秋	1881
17	17	流山市西深井821先	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲書	明治十五年二月吉日	1882
18	18	流山市東深井39先	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲書	明治十五年一月吉日	1882
19	19	山崎 香取神社	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲謹書	明治十五年十二月	1882
20	20	小山新田 稲荷神社	御嶽講碑	自然石碑	御嶽山神社／八海山神社／三笠山神社	東雲謹書	明治十五年三月	1882
21	21	流山市 個人O家	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲書	明治十五年一月吉日	1882
22	22	流山市西深井 浅間神社	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲敬明書	明治十六年六月一日	1883
23	23	吉川市鉦塚 稲荷神社	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲敬明書	明治十六年六月一日	1883
24	24	桜台 桜木神社	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲敬明書	明治十七年十一月吉辰	1884
25	25	堤根 菅原神社	御嶽講碑	自然石碑	八海山大神	東雲敬明書	明治十九年九月	1886
26	26	堤根 菅原神社	御嶽講碑	自然石碑	三笠山大神	東雲敬明書	明治十九年九月	1886
27	27	吉川市下内川 個人O家	富士講碑	自然石碑	浅間大神／角行靈神／小御岳神社	東雲書	明治十九年一月吉日	1886
28	28	船形下 個人E家畑中	富士講碑	自然石碑	浅間大神	東雲書	明治二十年丁亥三月吉日	1887
29	29	三ツ堀 香取神社	庚申塔	自然石碑	猿田彦大神	東雲書	明治二十一年十二月吉日	1888
30	30	山崎 香取神社	伊勢講碑	自然石碑	伊勢太々御神楽	東雲敬明書	明治二十一年二月二日	1888
31	31	東金野井 個人S家	三山百番順礼	自然石碑	出羽三山百箇所供養塔	東雲敬明書	明治二十三年五月吉辰	1888
32	32	今上上組 稲荷神社	庚申塔	角塔	青面金剛	東雲敬明書	明治二十三年三月吉辰	1890
33	33	中根 鹿島神社	御嶽講碑	自然石碑	御嶽神社	東雲謹書	明治二十三年四月	1890
34	34	上花輪 香取神社	淡島塔	自然石碑	粟島大神	東雲敬明書	明治二十四年四月	1891
35	35	山崎 香取神社	伊勢講	自然石碑	天照皇大神 太々御神楽	東雲敬明書	明治廿五年二月十九日	1892
36	36	岩名 個人T家	富士講碑	自然石碑	參明藤開山	東雲敬明書	明治二十七年五月吉日	1894
37	37	木間ヶ瀬出洲 個人S家	三山百番順礼	自然石碑	出羽三山百箇所供養塔	東雲書	明治二十八年四月	1895

総No	No	所在地	種類	形式	銘文	東雲銘	制作年	西暦
38	38	山崎 香取神社	記念碑	自然石碑	征清従軍記念碑	東雲敬明翁書	明治二十八年六月	1895
39	39	清水 清水公園内	寿碑	自然石碑	浅草庵一行碑	東雲望月敬明撰文	明治二十九年孟夏	1896
40	40	中里 詳細不明	十九夜塔	石塔	十九夜塔	東雲敬明書	明治中期	
41	41	中里 詳細不明	月読塔	石塔	月読尊	東雲敬明書	明治中期	

2. 奉納額

総No	No	所在地	種類	形式	銘文	東雲銘	制作年	西暦
42	1	山崎 香取神社	伊勢講	書額	伊勢太々御神楽	東雲書	弘化三年丙午六月吉辰	1846
43	2	瀬戸 八坂神社	伊勢講	書額	伊勢太々御神楽	東雲書	嘉永五歲睦月吉辰	1852
44	3	瀬戸 八坂神社	四国巡礼	書額	御詠歌/四国三十三所	望月東雲敬書	嘉永五年正月吉鳥	1852
45	4	目吹 高根 香取神社	伊勢講	書額	太々御神楽/伊勢講	望月敬明謹書	明治十年四月吉辰	1877
46	5	木野崎 大神宮	伊勢講	書額	伊勢神宮御神楽	東雲書	明治十三年二月良辰	1880
47	6	瀬戸 八坂神社	伊勢講	書額	伊勢太々御神楽	望月東雲	明治十四年二月良辰	1881
48	7	目吹上 香取神社	伊勢講	書額	伊勢太々御神楽/天照皇太神宮	東雲謹書	明治十五年三月吉辰	1882
49	8	鶴奉 稻荷神社	伊勢講	書額	伊勢太々御神楽	望月東雲書	明治十五年二月二十六日	1882
50	9	山崎 香取神社	伊勢講	書額	伊勢太々御神楽	東雲敬明謹書	明治十七年二月二十一日	1884
51	10	山崎 香取神社	伊勢講	書額	伊勢神宮拜賽	東雲書	明治二十年二月二十一日	1887
52	11	目吹中 熊野神社	伊勢講	書額	伊勢太々御神楽	東雲敬明	明治二十二年二月二十一日	1888
53	12	山崎 香取神社	出羽三山参拝	書額	出羽三山参拝	東雲敬明	明治二十二年三月吉辰	1889
54	13	瀬戸 八坂神社	船橋講	書額	意富比太々御神楽	望月東雲書	明治二十二年三月十一日	1889
55	14	保木間 天神社	三山百番順礼	書額	三山百番觀音靈場巡拝	東雲書	明治廿二年九月	1889
56	15	堤台 延命地藏尊	繪馬堂	書額	三山百番觀音靈場参詣	東雲書	明治二十三年	1890
57	16	上灰毛 稻荷神社	百番順礼	書額	地蔵尊	東雲書	明治二十四年	1891
58	17	三ツ堀 香取神社	船橋講	書額	大々御神楽/意富比大神宮	東雲七十六翁	明治二十五年四月十六日	1892
59	18	堤台 延命地藏尊	繪馬堂	書額	威徳來除慶	東雲敬明書	明治中期/日清戦争前後力	1897
60	19	三ツ堀 香取神社	社額	書額	香取大神/本朝鎮守棟梁寫	東雲敬明書	明治	
61	20	今上下谷 女躰神社	幟幡	書額	奉獻伊弉冉尊/再建力	東雲謹書	明治中期	

3. 書画

総No	No	所在地	種類	形式	銘文	東雲銘	制作年	西暦
62	1	東金野井 個人B家		書	幽怪草	寿翁七十七翁	明治二十六年	1893
63	2	中根 個人O家/親戚		書	子象	東雲	明治二十六年	1893
64	3	東金野井 個人B家		書	閑雲	七十八翁東雲	明治二十七年	1894
65	4	東金野井 個人B家		書	風静徳人吹	七十八翁東雲	明治二十七年	1894
66	5	東金野井 個人B家		書画	富士山七船	東雲七十八翁	明治二十七年	1894
67	6	東金野井 個人B家		書	華屋	八十翁東雲篆	明治二十九年	1896
68	7	中根 個人O家/親戚		書	朝壁楽	東雲敬明書	明治中期	
69	8	東金野井 個人B家		書	窓閑茶	東雲敬明書	明治中期	
70	9	東金野井 個人B家		書	築多荒院尊	東雲居士	明治中期	
71	10	東金野井 個人B家		書	春暖鳥声	東雲居士	明治中期	

表2. 望月傳左衛門（東雲）年表

No.	出来事	年齢	作品・銘文等	制作年	西暦
1	誕生	1	山崎村、望月傳左衛門家に誕生	文化13年	1816
2	書デビュー/初出	30	山崎香取 伊勢講額	弘化3年6月	1846
3		36	瀬戸八坂 四国巡礼額	嘉永5年1月	1852
4		36	瀬戸八坂 伊勢額	嘉永5年6月	1852
5	文書に古料年寄とあり	51	山崎村 古料年寄 傳左衛門	慶應3年	1867
6	明治維新後、副戸長となる	55	望月傳左衛門、副戸長任命状	明治4年9月	1871
7	翌年、戸長頭取となる	56	望月傳左衛門、戸長頭取任命状	明治5年8月	1872
8	小区戸長となる	58	望月傳左衛門、戸長任命状	明治7年8月	1874
9		59	東宝珠花日枝 富士講碑	明治8年5月	1875
10		61	目吹高根香取 伊勢講額	明治10年4月	1877
11		61	平井個人 富士講碑	明治10年11月	1877
12		62	山崎個人 富士講碑2基	明治11年10月	1878
13		62	山崎福壽院 聖徳太子塔	明治11年4月	1878
14		62	山崎個人 富士講碑	明治12年6月	1879
15		63	桜台・富士講碑（丸岩講）	明治13年3月	1879
16		64	大殿井個人 富士講碑2基	明治13年12月	1880
17		64	大殿井個人 御嶽講碑	明治13年カ	1880
18		64	大殿井個人 氏神3基	明治13年カ	1880
19		64	東深井 御嶽講碑	明治13年4月	1880
20		64	木野崎大神宮 伊勢講碑	明治13年2月	1880
21		65	瀬戸八坂 伊勢講額	明治14年2月	1881
22		65	浅間大神 丸岩印	明治14年12月	1881
23		65	船形個人墓 巡礼塔	明治14年	1881
24	妻スイ、63歳で逝去	65	観書院壽鶴妙敬大師 妻逝去	明治14年5月	1881
25		66	流山市個人 富士講碑	明治15年1月	1882
26		66	東深井 富士講碑	明治15年1月	1882
27		66	西深井 富士講碑	明治15年2月	1882
28		66	鶴奉稻荷神社 伊勢講碑	明治15年2月	1882
29		66	小山稻荷 御嶽講碑	明治15年3月	1882
30		66	目吹上・香取神社 伊勢講碑	明治15年3月	1882
31		66	山崎香取 富士講碑	明治15年12月	1882
32		67	西深井・浅間神社 富士講碑	明治16年6月	1883
33	息子直蔵、山崎村戸長となる	67	望月直蔵 山崎村戸長任命	明治16年12月	1883
34		67	吉川市笹塚・稻荷神社 富士講碑	明治16年	1883
35		68	山崎香取神社 伊勢講額	明治17年2月	1884
36		68	桜台・桜木神社 富士講碑	明治17年11月	1884
37		70	堤根・菅原神社 御嶽講碑 2基	明治19年カ	1886
38		70	吉川市下内川 個人宅 富士講碑	明治19年1月	1886
39		71	山崎香取 伊勢神宮拝賽	明治20年2月	1887
40		71	船形下 谷津野畑端 富士講碑	明治20年3月	1887
41		72	山崎香取 伊勢太々御神楽	明治21年2月	1888
42		72	山崎香取 伊勢太々御神楽	明治21年2月	1888
43		72	東金野井 出羽三山百箇所供養塔	明治21年5月	1888
44		72	三ッ堀香取 猿田彦大神	明治21年12月	1888
45		73	瀬戸八坂 意富比太々御神楽	明治22年3月	1889
46		73	山崎香取 出羽三山参拝	明治22年7月	1889
47		73	三山百番観音霊場巡拝	明治22年9月	1889
48		74	今上稻荷 青面金剛	明治23年3月	1890

No.	出来事	年齢	作品・銘文等	制作年	西暦
49		74	中根鹿島 御嶽神社	明治23年4月	1890
50		74	堤台延命地藏堂 地藏尊	明治23年	1890
51		38	上花輪香取 淡島塔	明治24年4月	1891
52		75	上灰毛稲荷 三山百番観音参詣	明治24年	1891
53		76	山崎香取 伊勢講碑	明治25年2月	1892
54		76	三ツ堀香取 船橋太々御神楽	明治25年	1892
55		77	東金野井個人 幽軽草	明治26年	1893
56		77	東金野井個人 子象□□	明治26年	1893
57		78	岩名個人 参明藤開山	明治27年5月	1894
58		78	東金野井個人 閑雲	明治27年	1894
59		78	東金野井個人 風静僊人吹	明治27年	1894
60		78	東金野井個人 富士山と船	明治27年	1894
61	書画集覧に列記	78	詩文書銘家上段に列記	明治27年	1894
62		79	木間ヶ瀬個人 三山百観音順礼塔	明治28年4月	1895
63		79	山崎香取 征清従軍記念碑	明治28年6月	1895
64	80歳にて逝去	80	實乗院敬明東雲居士	明治29年1月	1896
65	浅草庵一行碑に撰文	80	清水公園内 浅草庵一行碑	明治29年	1896
66		80	東金野井個人 華屋□□	明治29年	1896
67	後妻ツエ、逝去	63	智賢院貞鏡妙範大姉	明治31年8月	1898
68	直蔵の妻マサ、逝去	63	智鏡院良應妙貞大姉	大正10年1月	1921
69	息子、直蔵逝去	□5	深鏡院自應盛道居士	大正11年3月	1922

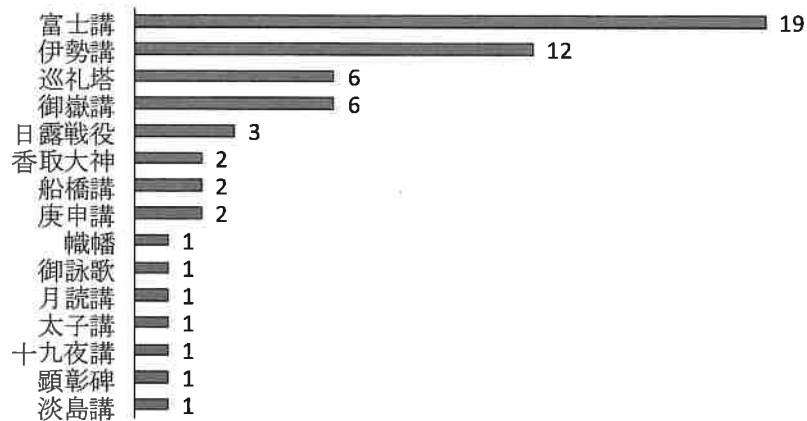


図1. 種類別作品数

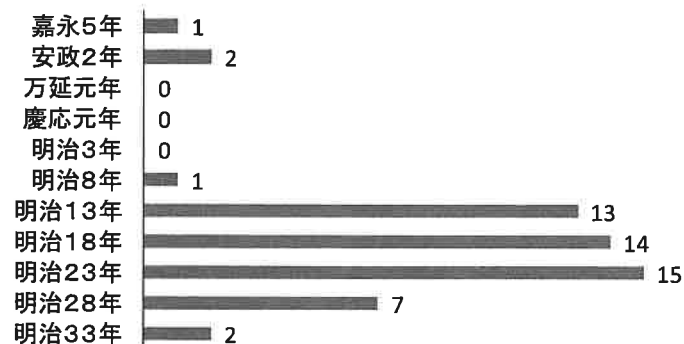


図2. 時代別作品数／5年刻